

実施報告書

山梨県立甲府工業高等学校
機械科2年 保坂 亮

「ストップ温暖化 ~自転車に乗ろう~」は、環境問題をテーマにした新しいタイプの企画だったと思います。そのため、参考になる例が無くて大変苦労しました。特に実施場所は日本人で高校生の僕ではとても難しい手続きでした。第一候補のベニスビーチでは、ロサンゼルス市役所からの返信に時間がかかり、一ヶ月前に許可が必要な事や5万円以上の使用料が掛かる事、最終的には9日の「Cic LAvia」前日で、かなり前からの予約でスペースが無い事が分かりました。第二候補のファーマーズマーケットでは非営利団体である国の認定と、トーランス市とファーマーズマーケットの許可が必要でした。残念ながらどちらもあきらめるしかありませんでした。

ここで実施場所を再検討し、土橋さんのオフィス駐車場で実施することになりました。人を集めるためには修理までしないと集まらないので、実施内容も整備から修理に変更しました。ロサンゼルス県人会の協力で、ラジオや新聞、ポスターなどで宣伝させていただいたおかげで、当日は10時開始に合わせ準備をしている最中、既に何人もの方が並んで待ってくれました。企画内容が修理となったことから、元本田技研の渡辺さんが手伝ってくれました。ひとりではとてもこなせない台数だったのでとても助かりました。又、渡辺さんは本田の時に開発からデザインまで関わったことから、色々な興味深い話を聞かせて頂きました。自転車修理には子供からお年寄りまで、幅広い年齢の人達が来てくれました。日本から持参した凧やハンカチ、風車などのプレゼントを喜んでくれ、修理した自転車を渡す時に温暖化防止のために自転車に乗ろうと言う話しや、山梨県のPRをしました。12時終了予定を30分オーバーして終了でした。

実施した企画は、今の僕に出来る最大限の場所と内容だったと思います。自転車に乗りたいから動くように直して欲しい人達が、壊れた自転車を持って来てくれ、動くようになった自転車に乗って喜んでくれた笑顔を見た時、この企画を実施して良かったと心から思いました。きっとこれからも自転車に乗ってくれると信じています。

又、「Cic LAvia」は今回の企画のためにロサンゼルス環境問題を調べている時見つけました。その内容は僕の「ストップ温暖化 ~自転車に乗ろう~」と同じ活動だと知り、スタッフとして是非参加したいと思いました。僕は修理技術に少しだけ自信があったので、自転車修理のボランティア「ルートエンジェル」に日本から申し込みました。出発前に担当者から何度かメールを頂き、スタッフの一員としてとても楽しみにしていました。当日はベテランスタッフのトレントさんとコンビを組み、自転車に乗って巡回しながら修理をしました。初参加の僕は色々教えてもらいながら、作業分担をして効率的に作業を進め

ました。パンクや空気補充、変速ギアの調整や泥よけの修正など、半日で10台以上の自転車を修理し、その度に温暖化防止のために自転車に乗ろうと話しました。「Cic Lavia」からはボランティア活動証も頂きました。ボランティアとして現地スタッフと一緒に活動できた事に達成感を覚えました。それから技術スタッフのテントでは重度に故障した自転車へ手際の良い修理が行われていました。経験と勘を頼りに直していく姿に技術者としてのプライドを見ることができました。

「Cic LAvia」には自転車に乗り参加者としても体験しました。会場は2万人以上の人達が参加していて、スケールの大きさに驚きました。日本から持参した自転車に「Stop Global Warming Choose Bicycle Save The Earth」と書いた旗やタイヤホイルに山梨県のPR旗、富士山の写真も車体に貼り付け、ベニスビーチに向かって出発しました。県人会の吉田さんとも別れ、ひとりでの出発はドキドキしましたが、自転車に乗るとこのイベントの楽しさや参加している人達の「自転車が好き」と言う気持ちが伝わってきました。途中で「Stop Global Warming Choose Bicycle Save The Earth」の旗を見て「Nice Flag」と気軽に声を掛けてくれた人達と、お互いの自転車を止めて話をしました。「日本から来たんだ。富士山きれいだよ。自転車は環境に良いよ。」こんな何気ない行動と会話を繰り返す事で、人々の地球温暖化防止の意識が高まるのではないかと思いました。参加した人達の笑顔と笑い声であふれていた「Cic LAvia」の様なイベントが、車社会である山梨県でも実施できれば素敵だと思いました。

地球温暖化防止は、世界中で取り組むべき大きな問題です。僕がロサンゼルスで行った行動の様に、一人ひとりの力は小さいけれど、環境問題に目を向ける人が少しでも増え、世界中に広がれば、きっと大きな力となって解決に向かうと思いました。僕の「ストップ温暖化 ~自転車に乗ろう~」はその小さな一歩として、世界中の素晴らしい環境を未来に引き継ぐ事が出来ると信じています。

最後に僕がお世話になったホストファミリーの話をします。ホストシスターは日本語を勉強している友人や車好きのグループを紹介してくれました。思いがけない人達との交流で僕はアメリカに仲間ができたようで嬉しかったです。そして、ホストファーザーとの出会いは生涯忘れられない思い出となりました。ホストファーザーは元軍人で、空軍に所属していました。グランドファーザーも軍人だったので、幼い頃に日本の基地に来た事もあるそうです。乗り物が好きな僕とホストファーザーはすぐに仲良くなりました。特に飛行機の話は夜遅くまで語り合いました。ホストファーザーはベトナム戦争に参加していて、僕に戦争の悲惨さと自分も耐えきれなくなり途中で帰還したことなどを話してくれました。その時の苦痛な表情は今でもはっきり覚えています。帰国の日に大切なグランドファーザーの形見のカメラをプレゼントしてくれました。ホストファーザーは僕に「この壊れたカメラを直して、又会いに来てくれ」と言いました。僕はこの言葉の中に「立派な技術者になりなさい。戦争は二度としてはいけない」と言う意味が込められていると思いました。

帰国3日後、日本は戦後70年を迎えました。今僕はカメラを前にして平和の大切さを強

く感じています。いつの日かこのカメラで山梨県の自然の美しさや僕の平和な暮らしを撮り、ホストファーザーに会いに行きたいです。

お世話になりましたロサンゼルス山梨県人会の皆様、ホストファミリーを始め関係者の皆様、山梨県国際交流課の皆様、そしてこのような機会を与えてくださった小佐野記念財団に心から感謝しています。

ありがとうございました。